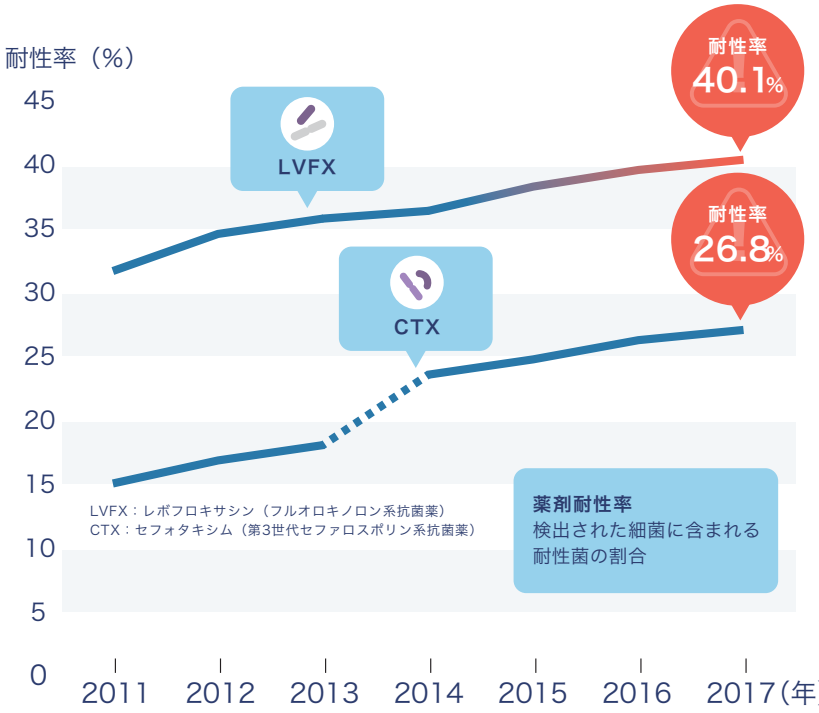
知ろう AMR、考えようあなたのクスリ

データで振り返る薬剤耐性の現状2018

Antimicrobial Resistance: AMR

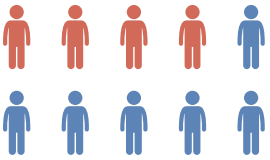
ヒトにおける代表的な細菌「大腸菌」の国内における薬剤耐性率の推移

（2011-2017年）



大腸菌の耐性率が国内でも年々上昇

大腸菌の薬剤耐性率が日本でも年々上昇しています。
特にフルオロキノロン系や第3世代セファロスポリン系抗菌薬が効きにくい大腸菌が増加しています。

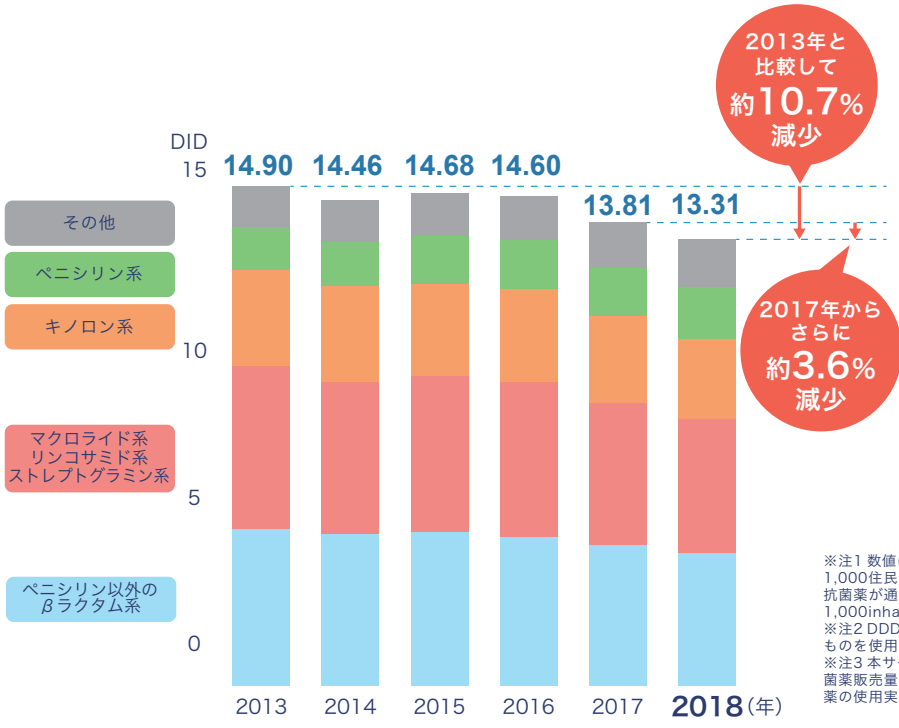


2014年よりCTXの判定基準が変更

薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書 2018より引用

全国の抗菌薬販売量

（2013-2018年）

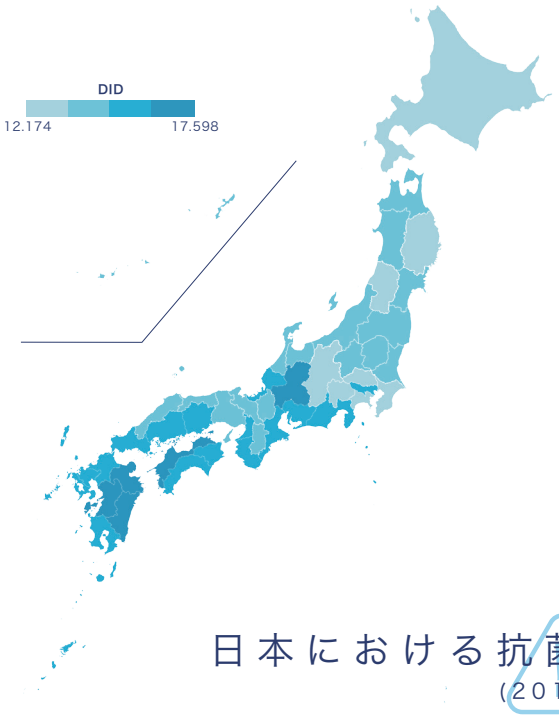


抗菌薬の販売量は減少傾向に

AMR対策アクションプランに基づく様々な取組みによって抗菌薬の販売量は減少傾向に。
2013年と比較して約10.7%減少
（販売量全体を比較しての数字）

※注1 数値は人口や抗菌薬ごとの使用量の差を補正するため、抗菌薬販売量を1,000住民・1日あたりのDefined Daily Dose (WHOによって定められたその抗菌薬が通常1日に使用される量の目安=DDD)で表したもの(DDDs per 1,000inhabitants per day=DID)です。
※注2 DDDは2019年1月に更新されましたが、過去との比較のため2018年のものを使用して計算しています。
※注3 本サーベイランスで公開されているデータは卸業者の販売量をもとに抗菌薬販売量データを算出したものであり、この結果が実際の医療現場での抗菌薬の使用実態をそのまま示すものではありません。

全国の都道府県別抗菌薬使用量
（2016年）



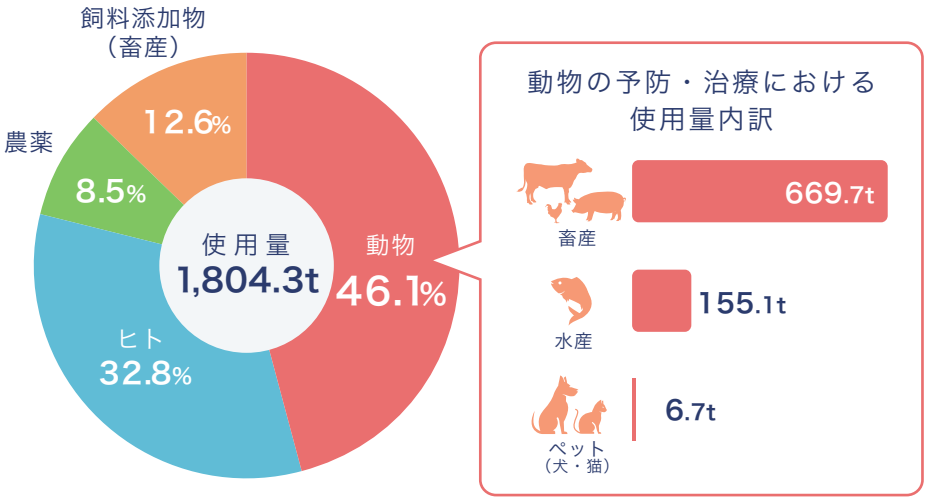
POINT

地域によって抗菌薬の使用状況は異なるため、地域の特徴に応じた対策が必要

DID：1,000住民・日あたりの用量補正使用量

※レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）に基づいた都道府県別抗菌薬使用量サーベイランスより引用

日本における抗菌薬使用量の現状
（2016年）



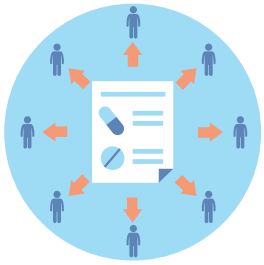
実は、抗菌薬はヒト以外にも多く使用されています。このため、ヒトの医療だけでなく畜産・水産業や農業・環境に携わる人がそれぞれ薬剤耐性の問題に取り組むことが必要です。

※ワンヘルス動向調査年次報告書2018より引用

当センターで取り組んでいくこと

薬剤耐性菌及び抗菌薬使用量の現状、動向、課題を明らかにする

院内感染対策の徹底



抗菌薬適正使用の周知を進める

AMR Clinical Reference Center
厚生労働省委託事業

国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院
AMR臨床リファレンスセンター
http://amrcrc.ncgm.go.jp
http://amr.ncgm.go.jp